

令和6年7月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和6年7月号」をお送りいたしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

およそ300年の歴史と伝統を誇る国の重要無形民俗文化財「八戸三社大祭」が、今年も7月31日～8月4日の日程で開催されます。おがみ神社・長者山新羅神社・神明宮の三神社の神輿行列と、神話や歌舞伎等を題材に各山車組が制作した27台の山車の運行が一番の見どころです。

今年は、最終日8月4日に行われる後夜祭の開催時間が1時間延長され、午後6時から9時までとなります。八戸市中心街にライトアップされた山車が一斉に展示され、各組のお囃子が繰り広げられる後夜祭。日曜日ということもあり、ゆっくりと歩きながら祭りの雰囲気を楽しむことができそうです。

市内では山車作りやお囃子の練習が本格化し、祭りムードが高まっています。八戸のまちが熱気に包まれる「八戸三社大祭」にぜひお越しください。

◎皆様へのお願い

職業、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 7月号 レポート

令和6年6月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	更上閣に屋台ずらり ガーデンレストラン 実証試験好評で本格実施
(2)	八戸市 質重視の観光振興プラン策定へ
(3)	八戸市内7～9月「涼みどころ」で熱中症予防
(4)	Hachinohe X-Tech Innovation IT企業誘致へ新事業
(5)	八戸市 こどもたち主体の情報発信 こどもまちなかIT部創設

【産業】

記事	概要
(6)	ライケット（八戸）精米JAS取得 全国初、品質に国の担保
(7)	八戸市中央卸売市場 ジュノハート初競り ハートビート1箱50万円
(8)	SGグループ（八戸）と弘前大 高級魚マツカワ養殖実証試験順調
(9)	八戸・ヴィアノヴァ リニューアルオープン 新愛称「NOMINOVA」
(10)	鮮魚ブランド化 始動「八戸産」付加価値創出へ

【地域】

記事	概要
(11)	ヨーカドー後継はイオン 八戸沼館店 来春オープン目指す
(12)	八戸圏域の観光資源認知度調査「せんべい汁」3～4割
(13)	エイトベース（東京）開館から4年弱 来店者100万人突破
(14)	橋梁維持管理人材育成へ 体験施設で学生初講習
(15)	コドモホコテン 市中心街で初開催

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	湊町のえんぶり組復活を 有志ら再始動 入組説明会開催
(17)	日本ハム 福島投手（八戸出身）プロ初勝利
(18)	市町村応援 ヴァンラーレ大使 八戸のPR任せて
(19)	狂言 野村萬斎・裕基さん親子 八戸公演
(20)	日本スケート連盟「八戸から五輪選手を」YSアリーナ育成拠点指定

【行政】

記事	
(1)	<p>更上閣に屋台ずらり ガーデンレストラン 実証試験好評で本格実施</p> <p>八戸市の国登録有形文化財「更上閣」敷地内にある「にぎわい広場」で6月5～8日、キッチンカーや屋台が集まるガーデンレストランが開かれた。市は、知名度が低く、利活用が課題だった広場の日常的な利用促進に向け、昨年度まで3回実証試験を行っており、好評だったことから本年度から本格実施とした。初日はピザやカレー、たこ焼きなど9店が並び、来場者は同広場や更上閣の日本庭園に設置されたテーブル席でランチなどを楽しんだ。また、最終日は夕方から、同広場と市美術館前の「マエニワ」で、音楽ライブと飲食を楽しむ「ヨルニワ」も開かれた。</p>
(2)	<p>八戸市 質重視の観光振興プラン策定へ</p> <p>八戸市は本年度、官民連携による観光施策の基本的な方針を定める市観光振興プランを策定する。種差や中心街など特定地域で取り組む「エリア」と、八戸三社大祭や伝統芸能などの分野で取り組む「テーマ」を設定。旅行客や訪日客への対応や、受け入れ態勢の整備などの課題を抽出し、質を重視した施策を検討する。また、VISITはちのへや八戸商工会議所とも連携しながら、今後、学識経験者や観光関係団体関係者などで構成する市観光振興審議会を設置。素案を作成した上でパブリックコメントを実施し、年度内に正式決定する。持続可能な観光産業の構築につなげて、総合的、戦略的に地域振興を推進する。</p>
(3)	<p>八戸市内7～9月「涼みどころ」で熱中症予防</p> <p>八戸市は7月～9月の3か月間、夏の熱中症対策として市庁舎、市美術館などの公共施設と郵便局の計72か所を「はちのへ涼みどころ」として解放する。涼みどころは、冷房設備を有しており、開館時間中、市民が自由に出入り、休憩できる施設で、熱中症警戒アラートの有無にかかわらず利用可能。「クーリングシェルター」の役割を果たすほか、市全体の省エネにもつながるとし、積極的な利用を奨励している。今後は、民間企業などにも協力を仰ぐ方針。</p>
(4)	<p>Hachinohe X-Tech Innovation IT企業誘致へ新事業</p> <p>八戸市の熊谷市長は、IT企業誘致に向けた実証プロジェクト「ハチノヘ・クロステック・イノベーション」を実施すると発表した。デジタル技術を活用することで解決が期待できる地域課題を明確化し、市内外の企業が参入しやすくする仕組みづくりに乗り出す。市庁内から上がった地域課題を分析・明確化して解決できる「運營業務受託業者」を募集・選定。この企業がコーディネーター役となってIT関連企業に参画を呼びかけ、課題解決に向けた事業を実施してもらうという仕組み。産業や業種の枠を越えてテクノロジーの活用で地域経済活性化に結び付ける。</p>
(5)	<p>八戸市 子どもたち主体の情報発信 子どもまちなかIT部創設</p> <p>八戸市の熊谷市長は、こどものための市ホームページを制作する「子どもまちなかIT部」を創設すると発表した。中高生の部員が、中心市街地を拠点に、自由な発想をもって活動しながら情報発信を行う。掲載内容は「子どもたちに関わるもの」「子どもたちが知りたいこと」「こどもの交流フォーム」の三つを想定しており、まちの魅力創生ネットワーク会議からの提言を踏まえ、集まる楽しさを感じながら活動する。市内の中高生を対象に約10人を公募し、八戸工業大学の学生、民間事業者がサポートする体制で、9月から来年3月まで産学官連携の取組として進める。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>ライケット（八戸） 精米JAS取得 全国初、品質に国の担保</p> <p>米穀卸業・ライケット（八戸市）は、新たに制定された精米の日本農林規格（JAS規格）の認証を取得した。6月6日付で全国7事業者の精米工場が初の認証を受けており、東北地方では同社のみ。同社は17年に製品の安全を確保する精米HACCP（ハサップ）を取得。JASは精米の白度や水分など品質に特化した規格となり、同社の河村代表は「一定の品質が担保されるため、付加価値化や差別化を図って販売展開することができる」と優位性を語った。</p>
(7)	<p>八戸市中央卸売市場 ジュノハート初競り ハートビート1箱50万円</p> <p>大玉でハート型サクランボの青森県品種「ジュノハート」の初売りが6月18日、八戸市中央卸売市場で行われ、上位等級品「青森ハートビート（1箱15粒入り）」に50万円の最高値が付いた。初日の出品のうち箱詰めは青森ハートビート10箱、ジュノハート43箱で、生産者に厳格な選果を求めたことや天候不順などのため昨年より半減。青森ハートビートは1箱2万～50万円、ジュノハートは同5千～1万2千円で取引された。青森ハートビートは、21日からさくら野百貨店八戸店でも2粒入り1箱1080円（税込み）で販売。開店前から購入希望者が列をなし、用意された30箱は約2時間で完売した。</p>
(8)	<p>SGグループ（八戸）と弘前大 高級魚マツカワ養殖実証試験順調</p> <p>医療や介護、教育事業を展開するSGグループ（本部・八戸市）と弘前大学の共同研究として、昨年7月から始まった高級魚「マツカワ」の陸上養殖に向けた実証試験が順調に進んでいる。マツカワは北方系の大型カレイで、同市の旧新八温泉を活用し、温泉水をろ過、殺菌して再利用する「閉鎖循環型」の方式で養殖。稚魚は、水槽内の温度と水質の適切な管理により、約10カ月で一般的な出荷サイズに成長。高密度の養殖ながら想定を上回る早い成育となった。関係者向けの試食会では、肉厚で歯ごたえが良いなど、おおむね好評だったという。今後も、事業化を見据えて実証試験を継続し、低コスト化や省力化の可能性を探る方針。</p>
(9)	<p>八戸・ヴィアノヴァ リニューアルオープン 新愛称「NOMINOVA」</p> <p>八戸市十三日町の複合商業施設「ヴィアノヴァ」の地下フロアの一部を改修した「NOMINOVA（のみのぼ）」が6月29日にオープンした。新たに入居したのは、県内初出店となる「焼肉ホルモンたけ田」や和食、無国籍料理など多彩な10店舗。また、内装には、八戸工業大学感性デザイン学科の学生が八戸えんぶりをテーマにした壁画を描いた。関係者は、周辺にはホテルがあり、みろく横丁に次ぐ中心街の観光スポット、八戸の豊かな食文化を体験してもらいたいと話。当日は、オープンを待ちわびた市民が訪れ、地下街に再び活気が戻った。</p>
(10)	<p>鮮魚ブランド化 始動 「八戸産」付加価値創出へ</p> <p>八戸市が新たに取り組む「八戸の鮮魚ブランディングプロジェクト」で、事業主体となる八戸水産価値向上実行委員会が6月30日、本格的に始動した。参画する地元の漁業者、鮮魚店、飲食店（料理人）の3者が連携し、鮮度保持の処理を施した鮮魚の付加価値創出を模索する。2024、25年度をトライアル期間とし、首都圏の飲食店や東京・豊洲市場などでニーズを調査。需要が高い魚種や処理方法などを分析し、それに応じた商品づくりを進める。首都圏の高級飲食店をターゲットに、ニーズに応じた商品開発や販路開拓のマーケティング活動、新幹線を活用した高速輸送体制の構築を進め、3年目以降の本格展開を目指す。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p>ヨーカドー後継はイオン 八戸沼館店 来春オープン目指す</p> <p>八戸市のショッピングセンター「ピアドウ」の核テナントで、8月末に閉店する「イトーヨーカドー八戸沼館店」の後継として、イオン東北（秋田市）の店舗が入居することが分かった。同社とピアドウの運営会社である八戸臨海開発は、店舗名、地域に合った形態、店舗の構成について検討を重ね、2025年春のオープンを目指す。雇用については、ヨーカドーの従業員を優先する方針。イオン関係者は「ピアドウの持つブランドで、他の店舗やショッピングセンターとは違う、新しい買い物の場を提供したい」と強調。近隣にあるイオン系列の大型商業施設も踏まえ、すみわけや相互補完を図る考え。</p>
(12)	<p>八戸圏域の観光資源認知度調査 「せんべい汁」3～4割</p> <p>VISITはちのへは2023年度、18～69歳を対象に、圏域8市町村の観光スポットやグルメなどの認知浸透度を調査した。関東、関西圏では「八戸せんべい汁」の認知度が3～4割となり、調査項目の中で最も高かった一方で、種差海岸や八戸えんぶり、館鼻岸壁朝市など地域を代表する観光スポットやイベントの認知度は低いことが分かった。関係者は「知られていると思っていたものが低く、課題を再認識した」と受け止め、今後、認知度アップのためのプロモーションや圏域での連携した誘客策を強化していく考え。</p>
(13)	<p>イトベース（東京）開館から4年弱 来店者100万人突破</p> <p>東京・内幸町の八戸都市圏交流プラザ「8 base（イトベース）」の来店者が6月15日、開館から4年弱で100万人を突破した。同店は、2020年9月にオープン。初年度は約半年で19万人超が訪れたが、その後は新型コロナウイルス禍によって時短営業や酒類の提供制限などを余儀なくされた。現在は再び順調に来店者数が推移している。当日は、店関係者が、節目となった都内在住の夫婦に南部せんべいやりんごジュースなどの圏域特産品詰め合わせを贈呈し、達成を喜んだ。</p>
(14)	<p>橋梁維持管理人材育成へ 体験施設で学生初講習</p> <p>八戸工業大学は6月18日、構内にある「橋梁メンテナンス体験施設」で初めて学生向けの講習会を開いた。施設は地元企業からの寄付金などを活用し、昨年12月に完成。実在する橋と同様の工法で作られており、見学が難しい橋の内部構造や裏側、資材の変遷などを間近で見ることができる。同日の講習会には大学院生と4年生が参加。施設の設計を担ったキタコン（弘前市）の社員から落下防止システムや各種検査方法などを学び、実務的な知識を習得した学生は充実した表情を見せた。また、同大では今春から企業の研修も受け入れており、間口を広げて社会インフラを担う人材の育成強化を図る。</p>
(15)	<p>コドモホコテン 市中心街で初開催</p> <p>八戸市中心街を歩行者天国にする今年2回目の「はちのへホコテン」が6月30日に行われた。今回は、市私立幼稚園協会が初めて「コドモホコテン」を企画。子どもが街にいる楽しさを発信し、子育て世代に優しいまちづくりにつなげようと協会側が提案したもの。当日は協会加盟の19園が参加し、各園は、多彩な遊びのブース、マジックショーや体操といったステージイベントで会場を盛り上げた。子どもたちは思う存分に楽しみ、街は家族連れでにぎわいを見せた。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>湊町のえんぶり組復活を 有志ら再始動 入組説明会開催</p> <p>八戸市湊地区で、半世紀ほど前まで存在した「柳町えんぶり組」を「湊えんぶり組」として復活を目指す地元有志の動きが活発化している。6月1日には、演舞披露と入組説明会を開催。担い手確保のほか、衣装や道具を調達するため、クラウドファンディングもスタートさせた。過去に「湊えんぶり組を復活させる会」が誕生したが、本格的に動き出したところ新型コロナウイルスの影響で活動自粛となり、自然とメンバーが減少した経緯があり、今春ようやく再始動。来年2月に市中心街で開かれる「八戸えんぶり」参加を目標に、活動を加速させる。</p>
(17)	<p>日本ハム 福島投手（八戸出身）プロ初勝利</p> <p>プロ野球・日本ハムの福島蓮投手（八戸出身、八戸西高出）が、6月2日、エスコンフィールド北海道で行われた行われたDeNA戦に先発し、プロ初勝利を挙げた。育成から支配下選手になって臨んだ今季、5度目の先発マウンドに上がり、自己最長の7回、100球を投げ、5安打2失点の力投を見せた。21歳の長身投手は「いつもと変わらず、自分の投球をしようと思っていた。うれしい」と充実感をにじませた。</p>
(18)	<p>市町村応援 ヴァンラーレ大使 八戸のPR任せて</p> <p>サッカーJ3・ヴァンラーレ八戸の全27選手がホームタウン16市町村の魅力を発信する「ホームタウン応援大使」活動で、八戸市を担当する音泉翔真、湯本創也両選手が、6月3日、市庁に熊谷市長を訪ねた。応援大使は、ヴァンラーレ八戸が2022年シーズンから始めた活動で、選手が地域イベントへの参加やSNSでの情報発信などを通して地域の魅力をアピールする。この日、両選手は下平賢吾社長と共に応援大使の就任を報告し、「八戸の良さをPRしたい」と意気込んだ。</p>
(19)	<p>狂言 野村萬斎・裕基さん親子 八戸公演</p> <p>狂言師の野村萬斎・裕基さん親子による「狂言 八戸公演」が6月20日、八戸市公会堂で行われた。演目に先立ち、萬斎さんが伝統芸能である狂言の見どころや用語を解説。小舞「七つ子」の後、萬斎さんの長男・裕基さんによる「蝸牛」と萬斎さんによる「棒縛」が披露された。客席からは、萬斎さんのコミカルな動きに、何度も笑い声が上がるなど、狂言ならではの奥ゆかしい表現を楽しんだ。</p>
(20)	<p>日本スケート連盟 「八戸から五輪選手を」 YSアリーナ育成拠点指定</p> <p>日本スケート連盟は、八戸市の屋内スケート場「YSアリーナ八戸」をスピードスケート指導者らの技能を向上させるための育成施設に指定した。6月20日、同連盟の浜野理事が熊谷市長に認定証を交付し、競技人口の拡大に向けて施設を活用する方針を示した。指定は1日付で、スピードスケート育成拠点は国内初。本年度は8月以降に指導者や保護者向けの講義を3、4回程度実施する見通し。青森県の連盟と連携しながら、八戸市や東北地方の子どもたちの競技力向上につなげる。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

1 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

2 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

3 お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主査] 齋藤 千聖 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記4つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



ふるなび

JRE MALL



送付先

広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。